

児童教育コース English Camp

樟蔭高等学校 内田有紀

2011年8月、高校1年生児童教育コースでEnglish Campを行ないました。English Campは同コースの目的「英語が使える小学校・幼稚園教諭、保育士を目指す」に沿って今年度初めて企画された合宿であり、2泊3日の行程では、英語に対する関心を高め、英語を楽しく学ぶことを目標としました。行き先は小豆島にある、藤原学園星くずの村実験学校内あずき王国英語村。ここでは英語のネイティブ教師やバイリンガル教師による英語のレッスンを受けた他にも、留学生との交流やフィールドワーク、さらにこの英語村に滞在していた小学生や幼稚園児たちとの交流の場を持つこともできました。ここにEnglish Campの3日間を紹介したいと思います。

小豆島まではフェリーさんふらわあ号で3時間の船旅です。船の中では本校のアメリカ人教師、ブライアン先生による直前レッスンが待っていました。とはいえ、船上3時間ずっとレッスンを受けていたわけではなく、フェリーの中を探検したりおやつを食べたり、海の景色を楽しんだりもしました。

あずき王国英語村に到着すると、カナダ出身のヨシ先生とアメリカ人のタイラー先生が迎えてくれ、いよいよ英語漬けの合宿が始まりました。レッスンにはカナダ人のティム先生の息子たち、アイバー（5歳）、ケイン（7歳）、ロビン（9歳）も参加してくれ、まずは英語で自己紹介をしました。



生徒たちは皆まだまだ緊張し、なかなか英語が出てきません。自己紹介の後には、曲げる、伸ばす、上げる、下げるなど簡単な動作と体の部分を英語で覚え、ゲームをしました。先生がヨガのポーズをとり、それを目隠しした生徒に英語で伝え、先生と同じポーズを取れるかというゲーム。Bend your knees. や Raise your left hand, and touch your head. など、覚えた英語を使ってグループで対戦。つたない英語でも大いに盛り上がり、皆の緊張も解けてきたようです。ホテルでの夕食後にはフリートークがあり、英語村からヨシ先生、タイラー先生、アメリカ人の高校生アヤンナ、カナダ出身の大学生ギンが来てくれました。2～3人のグループに分かれ、4人のネイティブスピー

カー全員と10分ずつ話しました。小さなグループに分かれたので、それぞれの生徒が発言できるチャンスも多く、初めはどきどきしていた生徒たちですが、英語が分かる、英語が通じるという喜びを肌で感じ、大変楽しんだようです。また、思いをうまく伝えられないもどかしさも良い経験になったのではないのでしょうか。

2日目も晴天で暑い日になりました。生徒は先生たちと一緒に英語村のグラウンドで Hokey Pokey という歌を歌って体を動かすゲームをしました。

英語村に滞在中の子供たちも参加してくれ、夏の太陽の下、皆で元気に楽しみました。その後はあずき王国英語村の中を皆で散策しました。この英語村は山の中にあり、小さな森のようにたくさん木の生えているところもあります。その中には古いテントやかまどなどもあり、探検しているような気分でした。室内に戻って昨日の復習をし、休憩時にはタイラー先生に日本の遊び「あっち向いてホイ」を教えてあげました。するとタイラー先生はそれを英語” Look over there!” にし、皆で遊びました。” Guess Who?” というアメリカやカナダでよく知られているゲームも楽しみ、遊びを通してどんどん英語が出るようになってきました。午後からは英語村に滞在している小学生や幼稚園の子供たちと一緒に糸電話を作り、それを使って英語の伝言ゲームをしました。面白い試みでした。



小豆島と言えば「二十四の瞳」。私たちも映画のロケ地を訪ねました。古い町並みや、木造の小さな小学校の校舎、昔の自転車など、興味深いものがたくさんありました。映画村の向こうには海が広がっていて、膝まで水に入っていく生徒、一面のひまわり畑で写真を撮る生徒、ヨシ先生やタイラー先生とかき氷を食べる生徒、皆楽しい午後を過ごしました。この日の夕食はすき焼き。皆で作って食べるすき焼きはとてもおいしく、たくさんあったお肉もあっという間になくなりました。夕食の後はいよいよ樟蔭生のパフォーマンスです。生徒たちはこの日子供たちを喜ばせるために、それぞれのグループで出し物を用意してきました。4つの班が、紙芝居「桃太郎」、紙人形劇「シンデレラ」、歌「BINGO」、ゲーム「線路は続くよ、どこまでも」を一生懸命に練習してきました。もちろん英語で、です。結果は大成功。大人も子供も皆どの出し物も楽しんでくれて、大変な盛り上がりを見せました。樟蔭の

教師陣も英語版「崖の上のポニョ」をギターとオルガンと共に披露し、最後に皆で歌いました。このパフォーマンスの成功により、生徒たちは自分の英語にも自信をつけたようです。その後盛り上がった気持ちのまま、皆で花火も楽しみました。

最終日も午前中はレッスンです。グループ代表の生徒が絵を描いて、他のメンバーがその絵が何か英語で答える Pictionary というゲームをしました。何の絵か分かって、それを英語で何と言うのか分からないといったもどかしさを感じました。その後は、日本人には難しい r や th の発音練習をし、最後には Bear, Hunter, Ranger という全身を使ったジャンケンのようなゲームで大いに盛り上がりました。



3日間の全ての行程が終了し、いよいよ英語村を発つ前に行われた閉村式では、前夜の樟蔭生のパフォーマンスに感動したヨシ先生とタイラー先生が「大きな栗の木の下で」を一晩で覚え、振り付きの日本語で披露してくれました。樟蔭生たちは大喜びし、皆で一緒に踊りました。

帰りの船では、帰阪する英語村のスタッフや、参加した子供たちと一緒にだったので、船内でもゲームをしたりトークをしたりと、楽しい船旅になりました。南港に着いてからも皆別れを惜しみ、全員が先生たち一人ひとりとハグをして帰路につきました。

今年度に初めて行われた English Camp でしたが、この合宿の目的でもあった「英語に対する関心を高める、英語を使って楽しむ」という点では大成功を収められたのではないかと思います。ただ、英語村でのレッスン内容については改善すべき点も多くあり、現地で実際にレッスンをするスタッフと、事前にもっと綿密に打ち合わせをしておくべきだったと感じる場面もありました。ともあれ、英語をもっと身につけたいという生徒たちの思いはその後の授業に取り組む姿勢からもはっきりと感じ取ることができ嬉しく思っています。夏の English Camp がその大きなきっかけになったと自信を持ってご報告できると思います。



なお、この English Camp は企画の段階から事前研修、当日の付き添い、事

後指導まで英語教育センターに支援していただきました。英語に興味を持った生徒がその後引き続き英語教育センターで学習を続けています。

以下、生徒たちに行ったアンケート結果の一部をご紹介します、English Campの報告を締めくくりたいと思います。

< English Camp 全体を通して一言 >

- ・英語を前より話せたような気がします。　・より英語が好きになった。また行きたい。　・生の英語に触れることで一歩成長できたと思う。
- ・すごく楽しかった！英語が前より好きになった。興味を持った。話せるようになりたいと思った。
- ・とても楽しく英語を学べた。ゲームや遊びを通じて、発音・単語・会話を身につけることができ、あつという間の3日間だった。
- ・とても楽しい3日間で帰たくないと思いました。あずき王国で学んだ英語力を将来役立てたいです。　・初日は私が理解できると思ってたより全然理解できなかった。二日目は慣れることができてリラックスして楽しめた。英語が前より好きになりました。

< English Camp でよかったこと >

- ・初日は英語があまり分からなかったけど生で外国人と話せて楽しかった。
- ・初めて外国の方と触れ合っとても楽しかった。だいぶ慣れて、英語に対する抵抗が全くなかった。　・遊びながら勉強したことで楽しみながら学べた。　・めちゃくちゃな英語でも理解してもらえてよかった。　・しゃべれなくても聞いてくれた。　・英語でのフリートーク。
- ・子ども達に出し物を喜んでもらえたこと。

< English Camp で困ったこと >

- ・初日はみんな緊張していた。　・言葉が通じず苦労した。
- ・発音の仕方が分からなかったし、聞き取れなかった。　・実際に話して通じたのは嬉しかったけど、相手の話すことが分からなかった。
- ・先生の話すスピードが速すぎて少し困った。